

松本日宗上人 著作目録

一、編著書

日蓮大聖人法則解説

昭和五十四年八月 法華宗宗務院

法華信仰随想

同 五十七年十一月 東方出版

(付記) 以下の書についても、編者の一員として尽力された。

法華宗法式作法要典

昭和三十年九月 本能寺出版部

法華宗年表

同 四十七年五月 法華宗宗務院

法華宗質疑明解一〜四

昭和三十五年四月〜同 四十一年八月

法華宗布教教学振興会

その他、「布教教材」並に信徒用施本の編集もされているが割愛する。

一、論 文

日隆聖人によつて闡明せられたる宗祖大士の
靈格 // 文類とメモ //

桂林学叢 第三号 昭和三十七年 四月 桂林同学会

日隆聖人の御消息について

同 第四号 昭和三十八年 五月 同

本能寺と非人風呂

宗門史談 第一号 昭和四十八年 十月 宗門史談会

本蓮寺(備前牛窓) 日進の護法

同 第二号 昭和四十九年 五月 同

本宗の法則について

宗門史談 第三号 昭和五十一年 九月 宗門史談会

金岳公子「扇の間」扇面和歌

同

同

同

日隆聖人御消息について

〔株橋先生
古稀記念法華思想と日隆教学〕所収

昭和五十四年十一月 刊 行 会

本能寺 妙蓮寺 両門和合決とその講釈

宗門史談 第四号 同 五十七年十一月 宗門史談会

常住院日学著 『本能寺 妙蓮寺 両門和合決』 解説

同

同

同

一、法話、解説

開基日隆大聖人の日常の御行持を偲び奉る

無上道 通卷七十四 昭和三十年二月 法華宗宗務院

金岳公子の布教伝道について(一)

同 九十六 同 三十一年十二月 同

蟻の話

同 九十七 同 三十二年一月 同

金岳公子の布教伝道について

同 九十八 同 二月 同

信仰実話 猛火の中の奇異 道場神守護によせて

同 一〇〇 同 四月

〔法華信仰随想〕に収録)

金岳公子の信仰と実践 —在家信徒の先駆者としての—

同 一〇一 同 五月 同

「旅窓述志録」について

同 一〇三 同 七月 同

—孝明帝の乙夜の覽を賜りし金岳公子の安国論—

同 (統)

神道問答抄 (上)

同 一〇四 同 八月 同

同 (中)

同 一〇五 同 九月 同

同 一〇六 同 十月 同

同 (下)

先哲弘教史―不可量院日慧上人	同	一〇七	同	十一月	同
千部国待会について	同	一〇八	同	十二月	同
法華經を信ずる人は幸いを万里の外より集むべし	同	一二五	同	昭和三十四年五月	同
日天子とおんだい目	同	一三三	同	昭和三十五年一月	同
母をかけてすごす女人なれば	同	一四八	同	昭和三十六年四月	同
「二つの蓮の実むすめのゆくえを見る」	同	一四九	同	五月	同
おだいもくとぼんのう「信仰と生活」	同	一五〇	同	六月	同
御木像造立の功德	同	一五五	同	同三十六年十一月	同
御遠忌を前に祈り続けましょう	同	一五八	同	昭和三十七年二月	同
日隆聖人のお血すじ	同	一六四	同	八月	同
日隆聖人をめぐる人びと その二「色の隆勝坊」	同	一六九	同	昭和三十八年一月	同
秋田問答 法華宗小笠原春翁上人と創価学会の前身	同	一七〇	同	二月	同
日蓮正宗義立会との問答記					〔法華信仰随想〕に収録
日隆聖人をめぐる人びと「日学上人と正直屋由来の記」	同	一七一	同	三月	同照境坊
日隆聖人をめぐる人びと その四「存道両師」	同	一七二	同	四月	同照境坊

むかしの宗門の人づくり 檀林生活と新説前行

同 一八三 昭和三十九年三月 同 (『法華信仰随想』に収録)

法華宗再興日隆大聖人の願文

同 一八五 昭和三十九年五月 同 (『法華信仰随想』に収録)

日隆大聖人の願文

同 一八六 同 六月 同

同

同 一八七 同 七月 同

同

同 一八八 同 八月 同

同

同 一八九 同 九月 同

同

同 一九〇 同 十月 同

同

同 一九一 同 十一月 同

同

同 一九二 同 十二月 同

御布施が恐ろしかった日隆聖人

同 一九四 昭和四十年二月 同 (『法華信仰随想』に収録)

おさなけれども母をかけてすごす女人なれば

同 二〇〇 同 八月 同

「持妙尼へのお手紙の拝講」

(『法華信仰随想』に収録)

靈山浄土へ乗り給うべき御馬なり

同 二〇五 昭和四十一年一月 同

不思議の日蓮を生み出せし父母

同 二〇六 同 二月 同

お祖師さまの、母君の御孝養について

同 二二一 同七月 同 (『法華信仰随想』に収録)

お祖師さまの「いのり」のおすゝめ

同 二二四

同

十月

同

〔法華信仰随想〕に収録)

本堂は生きている人間ばかりのものではない

同 二二五

同

十一月 同 照境坊

如来の使・金岳公子「その血と心と霊の因縁」

同 二二八

昭和四十二年二月

同

如来の使・金岳公子(続)

同 二二九

同

三月

同

太陽と母とゆりかごの国

同 二三〇

昭和四十三年二月

同

お祖師さまの命令で来たという人

同 二四一

昭和四十四年一月

同

〔法華信仰随想〕に収録)

知恵・私たちの心身を佛につくり変える

同 二四三

同

三月

同

神秘な力あるもの

鬼子母神さまの讃詩(書)

同 二五五

昭和四十五年三月

同

罪障の多い家ほどたのもししい

同 二五六

同

四月

同

一、思い出の記

株橋先生追想

桂林学叢

第一三三号

昭和六十年十月

法華宗宗務院

日宏上人断想(談)

興隆学林紀要

第二号

昭和六十三年三月

興隆学林専門学校

小笠原日堂上人の思い出

無上道

第五〇〇号

平成二年八月

法華宗宗務院

田村博士のこと

桂林学叢

第一五号

平成六年三月

法華宗宗務院

一、その他

宗門史調査第二回報告

無上道 第一四一号 昭和三十五年九月 法華宗宗務院

付記

松本日宗上人は、以上の外に、論文、エッセイ等の原稿や、短歌も遺されているが、現在公刊されているもののみをあげた。